

CentreCOM® 8624XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8624XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl11(2.2.2-11)

2 未サポート機能

以下の項目は付属のユーザーマニュアル、またはコマンドリファレンスに記載がありますが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

- IP ヘルパー(UDP ブロードキャストヘルパー)
- 認証サーバー(RADIUS/TACACS)
- NTP
- Web インターフェース
- VLAN リレー
- GVRP
- プロキシ ARP
- ポリシーフィルター
- プライオリティーフィルター
- IP ルートフィルター
- TRACE コマンド
- FINGER コマンド
- IPX ルーティング(AT-FL-03)
- AppleTalk ルーティング(AT-FL-03)
- PIM(AT-FL-03)

3 本バージョンでサポートされた機能

ソフトウェアバージョン2.2.2 pl04から2.2.2 pl11へのバージョンアップにおいて、以下の項目がサポートされました。

AT-FL-02(別売)

- ファイアウォール
ファイアウォール(ステートフルインスペクション)
アクセス制御(ファイアウォールポリシールール)
攻撃検出機能
アドレス / ポート変換(NAT/ENAT)機能

AT-FL-03(別売)

- IGMP
- DVMRP

4 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl04 から 2.2.2 pl11 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が追加されました。

- 4.1 SNMPトラップにおいて、ファンやリダンダント電源装置の復旧時にトラップを送信するようにしました。

5 本バージョンで修正された項目


ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl04 から 2.2.2 pl11 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 5.1 同一ポートにタグ VLAN(タグ付きポート)とポートランキングを設定した場合、該当ポートでフラディングされたパケットを受信すると、異なるトランクグループにもフラディングすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.2 DHCPクライアントからリース延長要求が送信されない場合がありましたが、これを修正しました。
- 5.3 マルチホーミングにおいて、ダイレクトブロードキャストパケットが送信されない場合がありましたが、これを修正しました。
- 5.4 任意の VLAN インターフェースに対して、その VLAN 配下に接続された端末から Ping を実行した場合、他の VLAN で高負荷が発生すると、Ping が失敗することがありましたが、これを修正しました。
- 5.5 ポートミラーリングとスパニングツリーを同一ポートに設定することが可能になりました。
- 5.6 リンクトラップが有効に設定されているポートにネットワーク管理ステーション(NMS)が接続されている場合、該当ポートでリンクダウンが発生すると CPU がハングアップすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.7 DHCP クライアントから options field に「74」がセットされたパケットを受信した場合、本体がリブートする問題がありましたが、これを修正しました。
- 5.8 UDP Length に「0」がセットされたパケットを受信した場合、CPU がハングアップすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.9 Half Duplex で動作しているポートにおいて、パケット送信から 64Byte 目付近、もしくはそれ以降(Late Collision) にコリジョンが発生した場合、本製品のスイッチング、および VLAN 間の IP ルーティングが停止することがありましたが、これを修正しました。
- 5.10 VLAN 間の IP ルーティングを無効にする方法として、DISABLE IP FORWARDING コマンドの使用が可能になりました。

- 5.11 ソフトウェアIPフィルターにおいて、特定のホストからのICMPエコーリクエストを拒否（その他のプロトコルは許可）するという設定を行った場合、他のVLAN配下に接続された端末から、この特定のホストに対してPingを実行すると、フィルターの設定が無効になることがありましたが、これを修正しました。
- 5.12 ARP テーブルと L3 テーブルの更新処理において、非同期となる場合がありましたので、これを修正しました。

6 本バージョンでの制限事項

6.1 SNMP MIB オブジェクトについて

 「ユーザーマニュアル」 2-51～2-52 ページ


SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。

- MIB II オブジェクト [ipNetToMediaPhysAddress] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot1dStpPriority] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot1dBaseType] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot3StatsFrameTooLongs] が正しくカウントアップされません。

6.2 ソフトウェア IP フィルターについて

SHOW IP FILTER コマンドで表示される Matches パラメーターにおいて、ユーザープライオリティの設定条件に該当するパケットが正しくカウントされません。

6.3 RIP バージョン 2 について

 「ユーザーマニュアル」 3-45～3-48 ページ

RIP バージョン 2 の可変長サブネット環境において、ADD IP RIP INTERFACE コマンドで、RECEIVE パラメーターに BOTH を指定した場合、経路情報を受信することができません。RECEIVE パラメーターには RIP2 を指定するようにしてください。


6.4 ポートランキングとスパニングツリーの併用について

ポートランキングとスパニングツリーを同一ポートに設定することはできません。

6.5 ハードウェア IP フィルターについて


- ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで、TCPACK パラメーターに FALSE を指定した場合、パラメーター値を設定ファイルに保存することができません。
- EMPORT/EPORT パラメーターで、フィルタリングを行うイーグレス(出力)ポートを特定した場合、該当ポート以外のポートにおいて、ARP のアドレス解決が行われていない端末に対する通信ができなくなる場合があります。

6.6 不明な MAC アドレス登録について

 「ユーザーマニュアル」 3-37 ページ

パケットの種類に関係なく、パケットの受信中に本体を起動すると、FDB に不明な MAC アドレスが登録される場合があります。

6.7 エージングについて

 「ユーザーマニュアル」 3-39 ページ

1回目のエージアウトですべてのダイナミックエントリーがFDBから削除されない場合があります。ただし、2回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

6.8 DHCP レンジの表示について


クライアントに割り当てていたIPアドレスを回収した場合、SHOW DHCP RANGE コマンドの表示項目 Free Address(未使用のIP アドレス一覧)に、該当のIP アドレスが重複して表示される場合があります。

6.9 IGMP(AT-FL-03)について

- 本体の起動(再起動)後 125 秒間は、クエリーメッセージが送信されません。
- IGMP タイマーの Other Query Present Interval の値を変更することができません。
- IGMP パケットをタグ付きポートから出力した場合、タグ無しパケットとして送信されません。


7 マニュアル・コマンドリファレンスの補足事項

7.1 VLAN への IP アドレス設定数について

 「ユーザーマニュアル」 3-43～3-56 ページ


本製品の VLAN 設定数は最大 62 個 (default VLAN を除く) ですが、VLAN への IP アドレス設定数は最大 32 個となります。

7.2 スパニングツリードメイン設定数について

 「ユーザーマニュアル」 3-29～3-36 ページ

スパニングツリードメインの設定数は、最大 16 個となります。

7.3 QoS について

 「ユーザーマニュアル」 3-27～3-28 ページ

- 本製品は、ユーザープライオリティを 0～3 の 4 レベルのキューに割り当てることができます。

「ユーザーマニュアル」 3-27 ページに「システムは、優先度の高いキュー 3 から順に、すべてのパケットを転送した後、次のレベルのキューの転送を行います。」とありますが、正しくは以下のとおりとなっていますので、訂正してお詫びいたします。

各レベルのキューに割り当てられる帯域は、相対的に最も優先度の低いキューが 0% で、残りのキューが 100% を均等に共有するという割合になっています。割り当てられる帯域は、パケットが同時にキューイングされているキューの数により次のように異なります (数値は一番左が相対的に最もレベルの低いキュー、一番右が相対的に最もレベルの高いキューに割り当てられる帯域を示しています)。


同時に 2 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 100 (%)

同時に 3 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 50 : 50 (%)

同時に 4 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 33 : 33 : 33 (%)

- タグ無しパケットは、ユーザープライオリティ「0」で処理されます。

7.4 ポートランキングについて

 「ユーザーマニュアル」 3-6～3-8 ページ


- フラッディングされたパケットの送信ポートには、トランクグループ内でリンクが一番最初に確立したポートが使用されます。

- ポートランキングと VLAN 間 IP ルーティングを併用した場合、ルーティングされたパケットに対して冗長機能は動作しますが、負荷分散は行われません。

- バージョン 2.2.2 pl11 で、トランクグループに追加されたポートの通信モードが、Full Duplex 固定から SPEED パラメーターで指定した速度のオートネゴシエーションとなりました。バージョン 2.2.2 pl11 以降を搭載した機器とバージョン 2.2.2 pl04 以前を搭載した機器間ではポートランキングの接続はできませんのでご注意ください。

7.5 リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」について

- バージョン 2.2.2 pl04 で、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」がサポートされたことにより、ステータス LED の表示内容が以下のようになります。

 「ユーザーマニュアル」 1-8, 4-5 ページ

LED	色	状態	表示内容	
FAULT	赤	点灯	本体、またはソフトウェアが故障しています。	
		点滅	1回点滅：	ファンに障害があります。
			3回点滅：	リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていて、本体の電源ユニットに異常があります。
			4回点滅：	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の電源ユニットに異常があります。
			5回点滅：	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていません。
消灯	システムに異常はありません。			
RPS	緑	点灯	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、かつ、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されています。	
		消灯	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでOFFが指定されているか、ONが指定されている場合はリダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていません。	
PWR	緑	点灯	本体に電源が供給されています。	
		消灯	電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていません。	

- CentreCOM RPS8000 の状態表示には、LED の表示と CLI での表示があります。どちらも、SET SYSTEM RPSMONITOR コマンドによるモニターの有効化が必要です。


SET SYSTEM RPSMONITOR={ON|OFF}

ON(有効)/OFF(無効)で指定します。デフォルトはOFFです。OFFの場合、LEDやCLIでCentreCOM RPS8000の状態を表示することはできません。

SHOW SYSTEM コマンドで表示される以下の項目で、本体とCentreCOM RPS8000の電源状態を表示します。

Main PSU	本体の電源状態です。On(電源オン)/Off(電源オフ)で表示します。
RPS Monitor	CentreCOM RPS8000のモニターのステータスです。On(有効)/Off(無効)で表示します。
RPS Connected	本製品とCentreCOM RPS8000のDC電源ケーブルによる接続状態です。YES(接続)/NO(未接続)で表示します。
RPS PSU	CentreCOM RPS8000の電源状態です。On(電源オン)/Off(電源オフ)で表示します。

7.6 ADD USER コマンドについて


 「ユーザーマニュアル」 2-28 ページ

バージョン 2.2.2 pl04 で、ADD USER コマンドに LOGIN パラメーターが追加されました。

```
ADD USER=login-name PASSWORD=password LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}
  [other-options...]
SET USER=login-name [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}] [other-options...]
SET USER [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}] [other-options...]
```

LOGINパラメーターは、USERレベルのアカウント (PRIVILEGE=USER) を作成する場合に必須となります。TRUE (ON/YES) を指定した場合は、ユーザーにコマンドラインインターフェース (CLI) へのログインを許可します。FALSE (OFF/NO) を指定した場合は、ユーザーに CLI へのログインを許可しません。RS-232 経由、および Telnet 経由のログイン行為に対して有効です。


7.7 ポートセキュリティのスタティックエントリ (learn) について

 「ユーザーマニュアル」 3-12 ページ

SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合のスタティックエントリ (learn) の扱いが、バージョン 2.2.2 pl04 で一部変更になりました。

- 2.1.5 pl02 以前
スタティックエントリ (learn) は、SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合、FDB から消去されます。
- 2.2.2 pl04 以降
スタティックエントリ (learn) は、SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合、(設定内容を保存しても) 本体の再起動によって FDB から消去されます。

7.8 ハードウェア IP フィルターについて

 「コマンドリファレンス 2.2」

ハードウェア IP フィルター/ファイアウォール

- ハードウェア IP フィルターとファイアウォール (AT-FL-02) を併用することはできません。
- ハードウェア IP フィルターは、IGMP パケットに対しては適用されません。

8 DOCUMENTATION SET (CD-ROM) について

最新の日本語版コマンドリファレンスや設定例 (CentreCOM 9600/8600 シリーズ コマンドリファレンス 2.2) は弊社ホームページに掲載されています。

同梱の CD-ROM 「DOCUMENTATION SET」が Software Release 2.1 の場合は、ホームページで最新の情報をご覧ください。

CentreCOM 9600/8600 シリーズ コマンドリファレンス 2.2 へのリンクはこちら:

<http://www.allied-teselis.co.jp/support/8624xl/manual.html>